

部門別協議会 ロータリー財団部門

SAA (田中東亜男、蓬臺 雅吾)
進行 (岩本 行弘)

挨拶

(カウンセラー・PDG 中島治一郎)



地区ができてから二十数年経ちますが、R財団部門は非常に良い仕事をして参りました。ひとえに各クラブ皆様のご協力のお陰です。ありがとうございます。皆様は次期のR財団委員長となられるわけです。「お金集め、困ったな。」と思われるかもしれませんが、まずR財団の奉仕のプログラムを知っていただきたいと思います。

国際親善奨学金というのが、R財団の大きな柱の一つとなっています。そしてGSE、これは次期には英国と行います。またこれらのプログラムに参加された方が入られる学友についてもご説明もさせていただきます。

当地区の一人当たり寄付額は、世界的に見ても優秀で毎年ベスト10に入っております。ロータリーは分かちあい、それによって喜びを感じ、感動することが根本的な部分だと思います。世界全体に思いやりを馳せて、R財団へご協力いただいていることと思いますので、どうか今後ともご協力をよろしくお願い致します。

(ロータリー財団部門カウンセラー補佐 岩本 行弘)

- 地区協議会の目的は、ロータリー・クラブの次期指導者が任務に備えて準備するためのものである。(手続き要覧42ページ)

せっかくの休日を割いて地区協議会にご出席いただいておりますので、内容のある部門別会議になることを願って、私達と一緒に財団部門の勉強を始めたいと思います。

長時間になりますので、上着を取って楽にして頂いても結構ですが、要点をご理解いただいて、クラブにおける次年度の財団委員会活動計画に活用していただければ幸いです。

今日の資料は少ししかありませんが、9月のクラブ財団委員長会議に「ロータリー財団地域セミナー・ハンドブック」をお渡しする予定です。昨年にはこのハンドブックを全クラブに2部ずつお渡ししておりますので、参考にしてください。

また、ロータリー財団については、手続き要覧の第4部「ロータリー財団」に掲載されておりますので、参考にしてください。

それでは、まず財団部門アドバイザーの中島治一郎パスト・ガバナーより、CLPにおけるロータリー財団についてご説明をお願いいたします。

CLPは皆様方のクラブを活性化するために、組織を考え直したらどうかということで、その参考例として提示されました。次年度は各クラブでこのCLPをどう進めるか、ということが大きな問題の一つになるかと思えます。はっきり申しましてこの案は、会員増強とR財団への寄付を高める案で、この2つを進めるとなると広報が必要ですから、広報にも今まで以上に力を入れています。

R財団は寄付ありきではございません。まずは各クラブでプロジェクトについて考えていただいて、お選びになっていただきたいと思えます。国際奉仕委員会でまずいろいろ考えていただいて、そのプログラムを実施し、奉仕するための道具としてR財団を活用していただきたいと思えます。R財団を大きくするために力を入れるではありません。十分にプロジェクトを理解いただいた上で、お金が必要だということでご協力いただきたい。

奉仕したいという気持ちを起こさせる一番大きな原動力は感動だと思えます。ただ単にお金だけを集めて、それが何に使われているのかわからないようなことは避けるべきだと思えます。

R財団は自転車操業的なやり方で進んできました。事務費等の費用も必要ですし、それを捻出するために皆様方からの寄付を3年間寝かして、その運用益でいろんな費用をまかなおうということです。そして3年後には寄付金を全部、奉仕のために使うというやり方できています。しかしそれではあまりにも自転車操業的ということで、恒久基金というセクションもできました。現在、10億ドルという目標を設けて恒久基金へのお願いをしていますが、これはR財団がきちっとした仕事ができるベースを持つということです。R財団は誰のものでもありません。私たちのR財団です。

本日ぜひお願いしたいのは、R財団はいろいろと良いプロジェクトを持っていますから、会員の皆様にこれを知っていただくようご努力をお願いします。そしてプロジェクトを活用するためにお金が必要だという認識を持っていただいて、世界平和のためにまた世界が少しでも住みよくなるためにご協力をお願いしたいと思います。

国際親善奨学金について

(次期財団奨学金委員長 吉野 惣太)

財団奨学金は民族・文化を越えた交流を実現するためのプログラムです。今年度は12名の派遣が決定しており、指定教育機関に留学できるまで学生の相談受けと指導を行います。地区へ奨学生を推薦していただくのは、その地元クラブからということで、その意味において地域と結びついているプログラムです。

今回、新しい規定ということで奨学生に対する募集水準が高くなりました。今までと変わったところや注意点は、①今までは希望の大学が順位を付けて5番目まで書けたが順不同になった。②語学テスト(トーフル等)の必要点数が高くなった。③合格者がオリエンテーションに不参加の場合、合格の取り消しが明文化された。④申請書への会長、カウンセラーのサインはお忘れなくお願いします。

R財団の奨学生は、『善意のシャワーの中に生きる』という体験をします。留学先国では親切的なロータリアン達と接することになります。人生で長い期間(3ヶ月~2年)、そのような経験をすることというのは、めったにないことだと思えます。帰国後、皆さんのクラブで卓話していただくとうかがうと思えますが、留学前と後ではずいぶん良く変わります。

今年は奨学生募集のポスターの枚数を増やし（300枚～3,000枚へ）、広く地域に配布しました。また配布教育機関数（16校から64校）も増やしました。どうか皆さんもクラブに問い合わせ等がないか、ご確認をお願いしたいと思います。

【活動計画】

- ① 海外派遣国際親善奨学生に関する活動。
- ② 海外からの受け入れ国際親善奨学生についての活動。

財団研究グループ交換について

（次期財団研究グループ交換等委員長 坂本 順一）

GSEの目的は、異なる国におけるロータリアンではない事業および専門職務に従事する若者のチームを交換するという事です。それにロータリアンの団長が1名引率します。次年度はイギリスのウェールズに行く予定です。団員の条件は25歳から40歳まで、英語ができ、交流ができる方ということで募集しています。最大の職務は、相手国における自分の職業の研修と、相手国のロータリアンとの交流・親善を行うことで、期間は4週間から6週間です。原則として週に1泊程度はホテルで、あとはロータリアンのところでのホームステイとなっています。すでに、団長・団員が決定しています。



今年の10月6日に出発して11月3日に帰国の予定です。そのかわりに来年の3月29日から4月27日まで英国ウェールズから団長以下団員が2640地区を訪問されます。送り出しにつきましては、約5回程度のオリエンテーションを開催予定で、2640地区および個人のプレゼンを作成します。そして日本の文化を伝えるために、いろいろな練習も行います。GSEは非常に体力が要ります。朝早くから夜遅くまで、いろいろ連れて行って下さって、交流するように勧められます。また費用については、個人的な小遣い以外は財団から出ることになっています。帰国後は財団の学友という組織に入ってくださいという条件があります。

問題は受け入れですが、いつも各IM単位でお世話いただいています。当然受け入れも原則ホームステイでお願いしたいと思います。一ヶ所で最低3泊くらいしないと、洗濯もできない状況になります。次期のイギリスからの受け入れに関しましては、IM1組・4組・6組・8組で願いすることになっていますが、団員の研修希望・見学希望が出てきますので、それに応じて皆様に手配していただくこととなります。よろしくお願い致します。

送り出しと受け入れが終わりましたら、GSEの報告書を作成します。そのためには、お世話いただいたご家庭やクラブ単位で原稿の作成や写真の提供につきましてもご協力お願いします。非常に長い期間のプログラムですので、それぞれ皆さんに担当していただいております。非常に長い期間のプログラムですので、それぞれ皆さんに担当していただいております。非常に長い期間のプログラムですので、それぞれ皆さんに担当していただいております。非常に長い期間のプログラムですので、それぞれ皆さんに担当していただいております。

財団学友委員会とは財団学友会（元ロータリー奨学生・元研究グループ交換参加者が帰国次第学友会の会員）の学友との関係を高め、学友の参加したプログラムの所期の目的を達成するために支援・協力するのが委員会の目的です。

【活動方針】

- ① 帰国次第すべての奨学生、研究グループ交換参加者を正式に迎える。
- ② 帰国した奨学生が主として派遣地区で義務付けられている講演を完了できるようにする（帰国報告会、クラブ例会での卓話など）。最初の1年はロータリー行事で少なくとも5回、そしてロータリアン以外の人を前に少なくとも3回講演することが義務付けられています。各クラブから学友の卓話希望の申し出を、当委員会までお願いします。
- ③ 学友を地区大会に招待する。
- ④ これから海外に旅立つプログラム参加者のためのオリエンテーション・プログラムに参加するよう学友に要請する。
- ⑤ 冊子（学友）を最新のものにする。
- ⑥ 財団学友会の定期的会合の開催に協力する。最低年1回は開催したいと思います。
- ⑦ 現在の名簿を最新のものにするために、学友の住所、電話番号、メールアドレスなどの変更がわかれば、出来る限り早く連絡するように要請する。過去には冊子（学友）に住所等も記載していましたが、現在は個人情報保護の観点から記載していません。お知りになりたい場合は、ガバナー事務所にご連絡いただき、本人の了解を得ましてお知らせいたします。



ロータリー財団というと寄付というイメージが強いのですが、それはロータリー財団の財源はすべて私たちの寄付金で成り立っているからだと思います。2640地区の会員の方々から、毎年ロータリー財団に多大なご支援を頂いておりますが、意外とその内容をご存知ない方が多く見受けられますので、改めまして財団の寄付金についてご説明させていただきます。

まず、ロータリー財団への寄付金はなぜ必要なのでしょうか。私たち会員は国際ロータリーに人頭分担金として、7月に24.50ドルそして1月に23.50ドルで合計48ドル支払っております。この人頭分担金は国際ロータリーの運営費用に使用されます。いろいろな奉仕活動はロータリー財団の資金でまかなっております。したがって、ロータリー財団の寄付金が無ければロータリーの奉仕活動は出来ないのであります。

ロータリー財団が地域社会や国際社会への奉仕をさらに強化、増大していくためには奉仕活動の充実と資金面での援助が大変重要になります。この両者のバランスが十分とれてこそ、初めて貧困や飢餓、疾病や障害に悩み、苦しんでいる全世界の人たちのために奉仕し、世界理解と平和

に貢献するという私たちの目的が達成できるのです。資金面の援助に必要な財源は全て私たちの寄付金で成り立っています。寄付金を大別しますと、①年次寄付、②恒久基金、③用途指定寄付の3種類になります。年次寄付は今日の財団プログラムを支え、恒久基金は明日へのプログラムを安定的なものにします。年次寄付は毎日庭に水を撒き、花々に水分を供給するようなものです。そして恒久基金はいつでも水を撒けるように十分な水を用意している貯水池のようなものです。用途指定寄付は、ポリオ・プラスやマッチング・グラント（旧同額補助金）のように用途を限定した寄付を言います。

この中で、年次寄付の50%と恒久基金の収益金の50%が3年後に地区財団活動資金（DDF）として地区で活用され、残りの50%は国際財団活動資金（WF）として活用されます。当地区では地区財団活動資金（DDF）を全て国際親善奨学金として活用しております。そして、国際財団活動資金は、寄付額の少ない地区でも寄付額にかかわらず、研究グループ交換（GSE）、3-H（保健、飢餓追放および人間尊重）補助金やマッチング・グラント、その他新しい試験的プログラムに活用することが出来ます。国際財団活動資金はこのように、全世界のロータリアンが平等に活動できるように配慮されているのです。

ロータリー財団では、一人100ドル平均を目標に掲げておりますが、世界160数カ国の経済事情、100ドルの貨幣価値に大きな違いがあります。100ドルが大きな負担になる国もあることを考えれば、当地区の自らの目標額を200ドルとしてきたことにご理解いただけるのではないかと思います。寄付は強制してはなりません。ロータリー財団の意義をご理解いただいた上で、ご協力をお願い申し上げます。

このように、会員の皆様方から毎年ご協力いただいておりますご寄付は、国際親善奨学生の支援のみならず、国際財団活動資金を通じて世界中のロータリー活動の一翼を担っているのです。

■受入れ国際親善奨学生について

海外から日本にきて勉強する奨学生もおります。6月までにロータリー財団から、来日奨学生のリストを送ってきます。そして、受け入れホスト・クラブと顧問ロータリアンを任命するように、ガバナーに要請がありました。

したがって、後日ガバナーよりホスト・クラブと顧問ロータリアンをお願いすることになりますが、その節には何卒よろしくお引き受け下さいますようお願いいたします。ホスト・クラブは奨学生の指定教育機関に近いクラブをお願いすることになります。

ホスト・クラブになりましても、ホーム・ステイをお願いしたり、金銭的なご負担をお願いすることはありません。ただし、会員の方から、短期ならホーム・ステイをさせてあげましょう、というお申し出があれば、歓迎いたします。

□ロータリー・センター・プログラムについて

次に、「紛争の解決と平和における国際問題研究のためのロータリー・センター」略してロータリー・センター（世界平和フェロシップ）についてご説明いたします。

これも財団奨学金の一つですが、国際親善奨学金プログラムと少し制度が異なります。

- ① 2年間、特別に指定された8つの提携大学において、修士課程での勉学です。
- ② 奨学金は2年間で5万ドル支給されます。
- ③ 選考は、競争制になっていて、一つの地区から1名だけ推薦できます。

- ④ 応募資格は、優れた指導力を持ち、国際関係、平和、および紛争解決の分野でのキャリアを選択し、すでにこれらの分野で3年以上の経験を積んだ人。例えば、ジャーナリズム、行政部、非政府機関（NGO）、外交官、調停において活動している人は、有力な候補者となります。したがって、学生は対象となりません。

■提携大学

現在の提携大学は、国際基督教大学(日本)、ブラッドフォード大学(英国)、デューク大学（米国）/ノースカロライナ大学チャペルヒル校（米国）、カリフォルニア大学バークレイ校、サルバドル大学（アルゼンチン）、クイーンズランド大学（オーストラリア）の6つのロータリー・センターの7大学 **パリ政治学院は2005-06年度で中止**

原資は世界中のロータリアンの寄付金です。当地区は毎年DDFから25,000ドルをロータリー・センターに協力しております。

当初は（2002-2004年度）は、全世界で70名まで選んでおりましたが、寄付金が減少してきたために、2007年からの開始年度より上限を60名とし、提携校との延長契約も今後見直される予定であります。

ロータリー財団には色々なプログラムがあります。財団のプログラムは全世界共通のものから、国や地域によって社会、経済、環境が異なりますので、その地域に合ったプログラムを取り上げていくべきだと思います。

ロータリー・センタープログラムは、元々「紛争の解決と平和における国際問題研究」のために設けられておりますので、私たちは、むしろ現在紛争などの問題を抱えている国の人々に、この制度を活用して頂き、将来その知識を発揮できる人材の育成に役立てるべきであると考えております。

このような観点から、当地区には国際親善奨学金の枠も十分ありますので、ロータリー・センター・プログラム奨学金を遠慮しておりました。しかし、今後、世界平和のために活発に活動している人で、ロータリー・センター・プログラムに是非応募したいという希望者があり、皆さんのクラブからご推薦を頂きましたなら、私たちは喜んで応援したいと考えております。

質疑・応答

: DDFの用途は教育的プログラム、国際親善奨学金として使うということでしたが、やむにやまれぬ事情ができた時に、その一部を崇高な活動への寄贈として使用する場合がありますので皆様方のご賛同をいただきたいと思います。